

福岡大学筑紫病院での成人気管支喘息における イー・アズマ・プログラムの有用性についての検討

豊島 秀夫¹⁾ 森田 正勝²⁾ 富田 健一²⁾
鈴宮 淳司²⁾ 渡辺憲太郎¹⁾

1) 福岡大学病院呼吸器内科

2) 福岡大学筑紫病院内科第二

要旨：目的：喘息ガイドラインに則した喘息治療を系統的に行うために、症状に対する簡単な質問表により重症度を判定できるイー・アズマ・プログラム（EAP）を使用し、その有用性について検討した。方法：2005年9月1日よりEAPを用いて喘息の重症度（ステップ）を決定し、長期管理薬について再検討した。EAP導入前後のステップおよび使用された長期管理薬について継続的に変化を観察した。結果：EAP前の喘息管理状態は症状なしと軽症間欠型が約60%を占めた。EAPを導入することで吸入ステロイドの使用頻度は66%から81%に増加した。EAP後に夜間症状、日常生活の状態、喘息症状の頻度の3項目それぞれについて検討したところ、症状のない症例は有意に増加し、3項目すべてで症状のない患者の比率は29%から55%に有意に増加した（ $p < 0.01$ ）。結論：EAPの導入により、より客観的な喘息評価がなされ、長期管理薬の適正化が促進され、喘息のコントロールが良好となることが示唆された。

キーワード：気管支喘息、イー・アズマ・プログラム、患者教育